

# 迷惑メール対策の概要

山井 成良（岡山大学）

迷惑メール対策セミナー [新潟]

2011年11月25日 新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」



# Contents

---

- Spamメールの動向
- 受信対策
- 送信対策
- 法的対策



---

# Spamメールの動向

# 迷惑メール

- 受信者が望まない電子メール
  - ウィルスメール
  - 架空請求メール
  - フィッシング(phishing)詐欺メール
  - 広告メール
  - エラーメール
  - など

# Spamメール

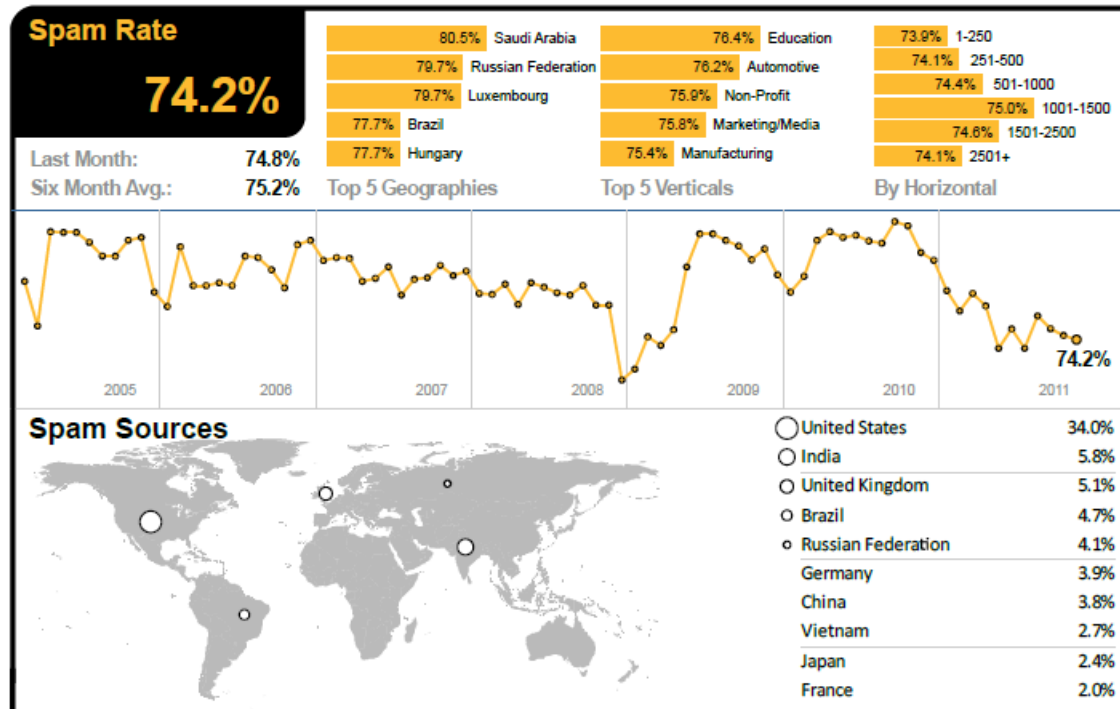


- SPAM (全て大文字)
  - 米Hormel Foods Corporationの商品&登録商標
    - <http://www.spam.com>参照
  - “Monty Python’s Flying Circus”の劇に登場
- spam (全て小文字)
  - 一方的かつ大量に送られる電子メール
  - Hormel Foods社も公認
  - UCE (Unsolicited Commercial E-mail)
  - UBE (Unsolicited Bulk E-mail)

# Spamメールの現状

## ■ Spamメールの比率

(シマンテックインテリジェンス月次レポート: 2011年10月号より)



# Spamメールによる被害(1)

- CPU・ディスク・ネットワーク資源の浪費
  - メール全体の90%程度
- メールの分類・削除
  - メール受信後も時間がかかる
  - 重要なメールの見落としも問題
    - spamフィルタを用いても起こりえる
- 発信者詐称, エラーメールによる間接的な被害
  - spamメール発信者との誤解
    - 通常メールの受信拒否も
  - エラーメールが詐称された発信者に大量に返送
    - 事実上のサービス不能攻撃

# Spamメールによる被害(2)

- 経済への影響(\*1)
  - 日本経済への影響額
    - 労働時間損失による被害額: 約7,300億円
    - ISP, 事業所, 消費者における対策額: 約970億円
  
- 環境への影響(\*2)
  - 2008年全体では62兆件
  - 世界全体での年間エネルギー消費量・・・約330億kWh
    - 米国での240万世帯分に相当
  - 世界全体での温室効果ガス排出量・・・ガソリン75億リットル分
    - 迷惑メール1通あたりの二酸化炭素排出量・・・0.3g

\*1 日本データ通信協会「迷惑メールの経済的影響・調査研究会」の調査結果

\*2 米国マカフィー社「スパムメールと二酸化炭素排出量」(2009/4)より

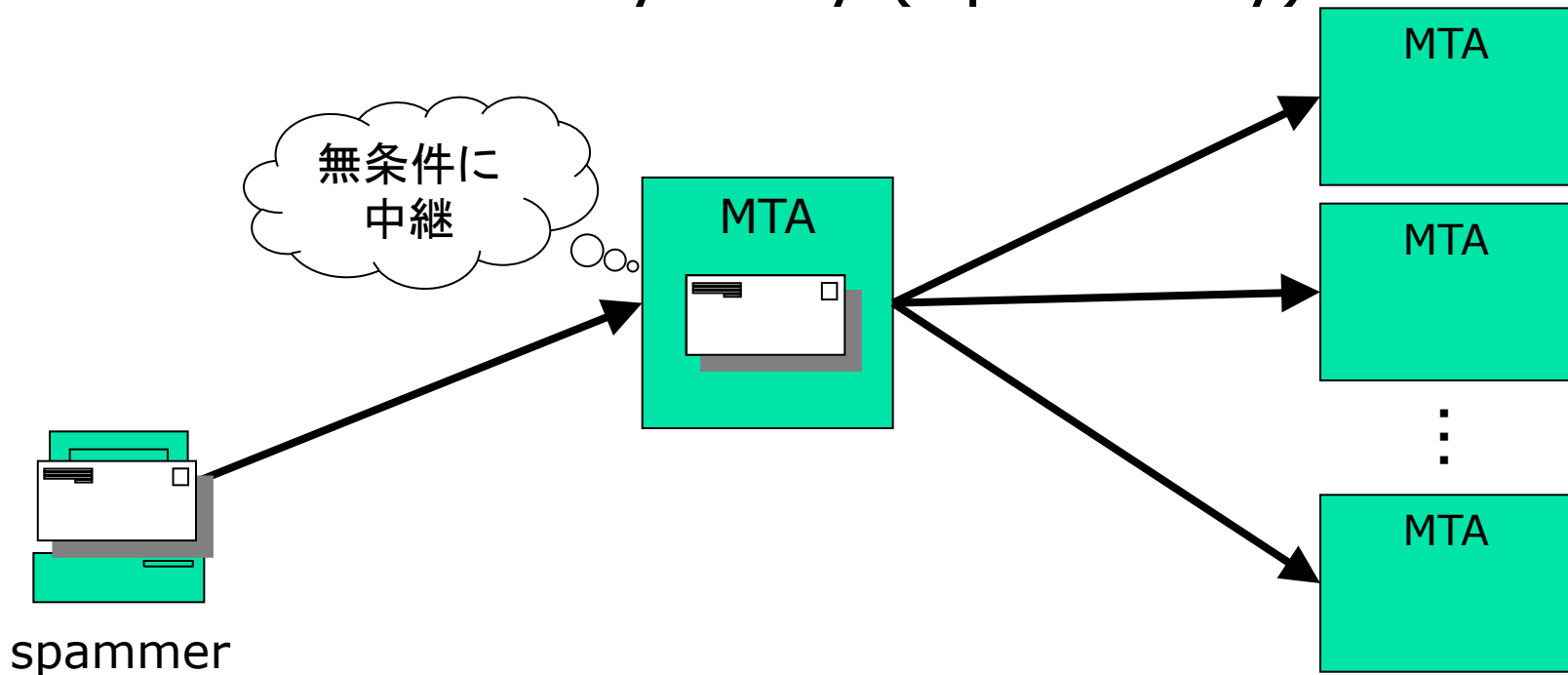


# Spammerの手口(1)

- アドレスの収集
  - 辞書攻撃(架空アドレスの生成)
    - 使われそうなアドレスに片っ端からメールを送る
      - 人名データ, 英数字の適当な組合せなど
    - 有効なアドレスだけリストに登録
      - 宛先不明エラーになれば, リストから削除
      - HTMLメールを開けば, リストに登録(web bug)
    - MTAへの負荷が非常に大きな問題(特に携帯電話メール)
  - ハーベスティング(実在アドレスの自動収集)
    - Webページ等から@を含むものを検索
    - メールサーバへ問合せ
  - アドレスの売買
    - 例: 500万アドレスで3万円

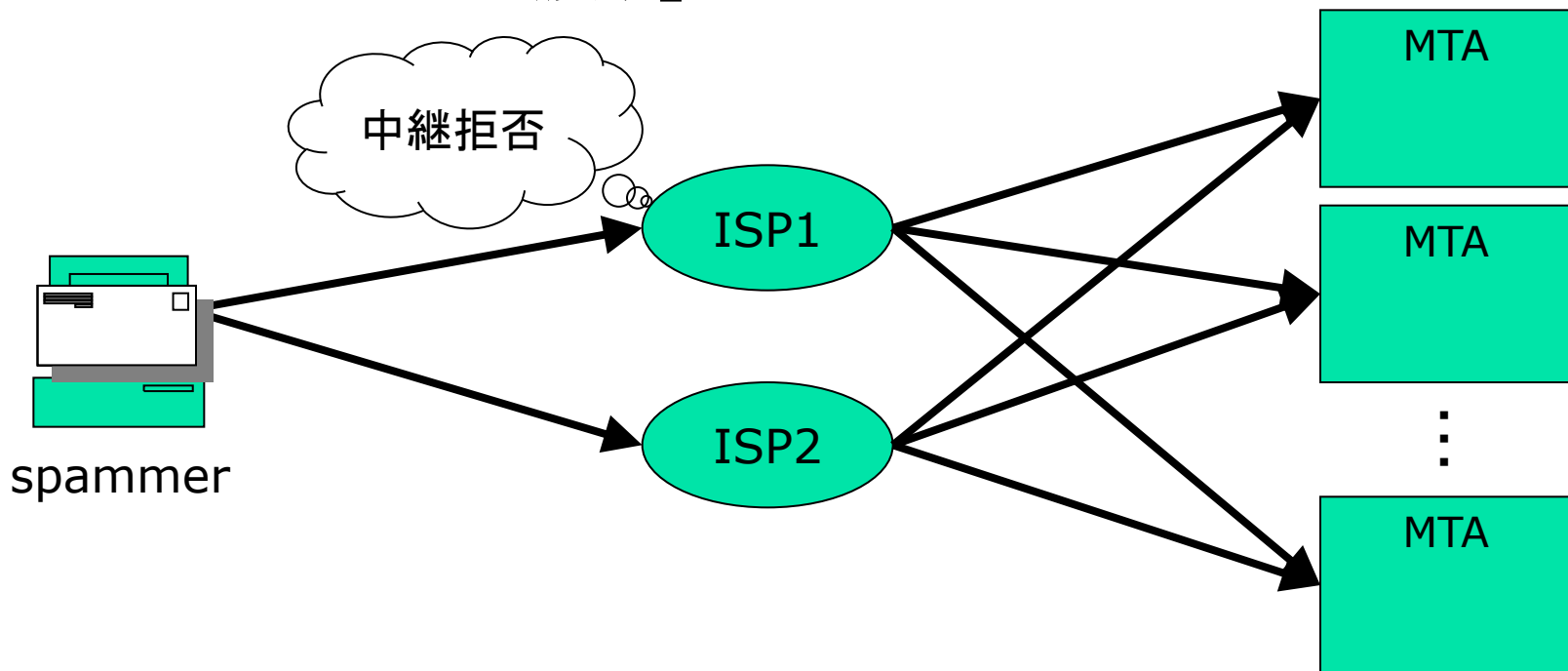
# Spammerの手口(2)

- Spamメールの配送(1)
  - Third Party Relay (Open Relay)



# Spammerの手口(3)

- Spamメールの配送(2)
  - ISPの「渡し」





---

# 受信対策

# 受信対策の性能評価基準

- 代表的な2つの評価基準
  - 見逃し(FN: false negative)率
    - 迷惑メールを通常メールと判断する割合
    - 検出率(迷惑メールを正しく判断する割合)と等価
  - 誤検出(FP: false positive)率
    - 通常メールを迷惑メールと判断する割合
- 重要なのは誤検出率
  - 見逃した迷惑メールは単に削除すればよい
  - 重要なメールが迷惑メールと判定されると影響大

# 望ましい受信対策

- 様々な観点が存在
  - 見逃し(FN)が少ない
  - 誤検出(FP)が少ない
  - スループットが高い
  - 遅延時間が短い
  - サービス不能(DoS)攻撃に強い
  - 外部のサービスに依存しない
  - 管理コストが低い
- どの観点が重要かは状況により異なる

# 代表的な受信対策

- ブロッキング・スロットリング
  - 迷惑メール受信時の対策
- フィルタリング
  - 迷惑メール受信後の対策
- 送信ドメイン認証
  - 送信元ドメイン名の検証

# ブロッキング(1)

## ■ 定義

- 送信側IPアドレス, エンベロープFromアドレス等に基づいて迷惑メールかどうかを判定し, 迷惑メールの本文を受信せず拒否する方法

## ■ 代表的なブロッキング技法

- IPアドレスの逆引き
- ブラックリスト/ホワイトリスト
- Tempfailing
- (自動認識付きホワイトリスト)



# ブロッキング(2)

- IPアドレスの逆引き
  - 例: S25R (Selective SMTP Rejection)
  - 失敗すればペナルティ
    - 例: 恒久拒否, 一時拒否, 応答遅延
  - 成功すればホスト名を検査
    - 例: 多くの数字を含むようなホスト名なら拒否
      - 動的IPアドレスからの発信と判断
    - 例: 特定の国であれば一時拒否or応答遅延

# ブロッキング(3)

## ■ IPアドレスの逆引き(続き)

### ■ 長所

- 単純で効果的
- S25Rでは99%の検出率(?)

### ■ 短所

- 誤検出率が高い
  - PTRレコードがない正当なMTAもかなり多い
  - ネットワークやDNSサーバのトラブルで受信拒否

⇒ 大規模組織・ISPには不向き

# ブロッキング(4)

- 公開ブラックリスト(DNSBL: DNS Black List)
  - 迷惑メール発信ホスト, 不正侵入ホスト, 迷惑メールに含まれるURL等を登録
  - 代表例
    - Spamhaus ZEN (<http://www.spamhaus.org/zen>)
    - SpamCop SCBL (<http://www.spamcop.net/bl.shtml>)
    - SORBS (<http://www.us.sorbs.net/>)
    - ORDB (<http://ordb.org/>) ※2006年12月サービス中止
  - 使用例(Spamhaus ZENの場合)
    - IPアドレスがA.B.C.DのMTAからSMTP接続
    - D.C.B.A.zen.spamhaus.orgのAレコードを検索
    - Aレコード(127.0.0.x)が得られれば, 接続を拒否

# ブロッキング(5)

- 公開ブラックリスト(続き)
    - トラブルも多い
      - 登録ホストからは通常メールも(ある日突然)拒否
      - 対策完了後も復旧に時間を要するものもある
      - ORDBではサービス中断後も膨大な問合せ
        - 2008年3月に全問合せに「登録」と回答するように設定
    - 効果も疑問(CEAS 2006の論文<sup>†</sup>における調査)
      - 登録ホストはbot感染ホストの6%程度
      - 検出後に直ちに登録されるホストは少ない
- <sup>†</sup> A. Ramachandran, *et al.*: Can DNS-Based Blacklists Keep Up with Bots?  
<http://www.ceas.cc/2006/14.pdf>

# ブロッキング(6)

- 自前ブラックリスト
  - 迷惑メールを多数送信するMTAを接続拒否
  - 多くの商用メールサービスで採用
  - トラブル多数
    - 例1:
      - 個人宛メールの転送設定により転送元MTAに対して接続拒否
    - 例2:
      - メーリングリストの運用により配送元MTAに対して接続拒否
    - 公開ブラックリストでも同様のトラブルあり

# ブロッキング(7)

## ■ Tempfailing

- 「迷惑メール発信MTAは再送をしない」との仮説に基づく方法
  - 通常MTAは信頼性重視
  - 迷惑メール発信MTAは配送効率重視
- 一時的に受信を拒否
  - 再送されれば受信
- 代表例
  - お馴染みさん方式
  - Greylisting

# ブロッキング(8)

- Tempfailing(続き)
    - 利点
      - かなり効果的(80%程度排除)
    - 欠点
      - 配送遅延が結構大きい
        - 再送まで1時間のものもある
        - 別MTAからの再送も一時拒否
        - 再送間隔が短すぎるものは再送と見なされないことも
      - 誤検出(再送しない通常MTA)も多い
        - 一部のファイアウォール・オンライン予約システムなど
      - ホワイトリスト(除外MTAリスト)の管理が必須
- ⇒ 大規模組織・ISPには不向き

# ブロッキング(9)

## ■ Tempfailing(続き)

### ■ 欠点への対策

#### ■ SMTPセッション強制切断

[http://www.ipsj.or.jp/01kyotsu/award/funai\\_bp/2006\\_pdf/LL\\_008.pdf](http://www.ipsj.or.jp/01kyotsu/award/funai_bp/2006_pdf/LL_008.pdf)

- ヘッダあるいは本文受信後にセッションを強制切断
- メッセージの同一性の確認による再送判定
- 誤検出にも対応可能⇒未再送分はマークして配送

#### ■ 適用時間限定型greylisting

<http://www.tri.pref.osaka.jp/poster/2007/pdf/C-11.pdf>

- 勤務時間中は初回受信, 勤務時間外は再送時受信
- 遅延時間の問題はほぼ解消
- ホワイトリストの管理もほぼなし



# スロットリング(1)

## ■ 定義

- 通信速度などを意図的に低下させることにより、迷惑メールの大量送信を妨害する方法

## ■ 代表的なスロットリング技法

- 同時接続数・確立頻度・帯域の制限
- 配送不能宛先数の制限
- Tarpitting

## スロットリング(2)

- 同時接続数・接続頻度・帯域の制限
  - サービス不能(DoS)攻撃に対する防御
  - Bot等からの大量配送の防止
- 配送不能宛先数の制限
  - 一部の迷惑メールに対して効果的
  - アドレス収集の防止
- いずれも一部の正常メール配送(特にメーリングリスト)に影響
  - 例: 携帯メールアドレスの登録禁止

# スロットリング(3)

- Tarpitting
  - 意図的に応答を遅延
    - 迷惑メール送信側でのタイムアウトを誘発
    - あるいは配送効率を抑制
  - ブラックリスト/ホワイトリストとの併用が多い
    - ブラックリスト登録MTAに対して遅延挿入など
  - 代表的な技法
    - Greet pause

# スロットリング(4)

- Greet pause
  - コネクション確立時の応答(220 ...)を遅延
    - RFC5321では送信側は5分間待つべきと規定
    - 多くの迷惑メール送信MTAは15秒程度で切断
  - MAIL/RCPTの応答を遅延する方法も
    - 例: 宛先不明の場合には遅延挿入
  - 応答を待たずに送信するMTAも拒否
    - 本来はPIPELININGが指定されている場合のみ可

# スロットリング(5)

- Greet pause(続き)
    - 長所
      - Tempfailingより設定が簡単
        - 再送かどうかの判定が不要
      - 配送遅延が小さい
      - 誤判定が少ない
    - 短所
      - サービス不能攻撃に弱い
- ⇒ 大規模組織・ISPには不向き

# フィルタリング(1)

- 基本方針
  - メール受信後に迷惑メールかどうかを判断
  - 迷惑メールは削除あるいは別に格納
- 代表的な方法
  - ルールベースフィルタ
  - ベイジアンフィルタ
  - 分散協調フィルタ(シグネチャベースフィルタ)

# フィルタリング(2)

- ルールベースフィルタ
  - 迷惑メールの特徴をルールとして記述
    - 単純なパターンマッチング
      - 本文中に「\$」「Viagra」など特定のキーワードを含む
    - ヒューリスティック
      - 長い英単語がある, FromとToが同じアドレスなど
  - マッチした場合, ルールに対応したスコアを加算
  - 一定のスコア以上のものを迷惑メールと判定
  - 欠点=柔軟性の欠如
    - スコアの調整は可能だが限界が存在
    - 新たな手口には新たなルールが必要
    - 誤検出が比較的多い

# フィルタリング(3)

- ベイジアンフィルタ(Bayesian filter)
  - キーワード(単語, 3字組等)の出現率を学習
  - キーワードの種類に応じて迷惑メールを判定
  - ベイズ則  $P(A|B) = P(A)P(B|A)/P(B)$  を利用
    - 事象A...メッセージが迷惑メールである
    - 事象B...メッセージがキーワードを含む
  - 有効なキーワードの例
    - **ff0000** ... HTMLメールにおける赤色指定
  - 新しい手口にもある程度対応可能
    - 但し, 学習に膨大な手間が必要
    - 最近は対応できないような回避策がいろいろ使われている



# フィルタリング(4)

- 分散協調フィルタ(シグネチャベースフィルタ)
    - 判定済みの迷惑メールの再受信を排除
      - 同一内容の迷惑メールが大量配送される点を逆利用
    - 利用者が迷惑メールをデータベースに登録
    - メール受信時に同一メッセージの存在を問合せ
      - 一定数以上の登録があれば迷惑メールと判定
    - 迷惑メールの認識率が低い点が問題
      - 大量の迷惑メールを登録する必要あり
      - 登録までのタイムラグあり
      - 内容の一部変更弱い ⇒ URIブラックリストの活用
- ⇒ 大規模組織・ISP向き

# フィルタリング(5)

- Spammer側のフィルタリング回避策
  - 十分にフィルタリング技法を研究
    - 単語の加工/挿入
    - 背景と同じ色での単語埋込み
    - 一部のWebサイトが提供するredirect機能の利用
    - サーチエンジン検索URLの埋込み
      - 検索結果の先頭に誘導先URLが表示されるようなリンク
    - ファイルへの埋込み(PDF, MS Word等)
    - 画像ファイルの添付+宛先毎の変形

# フィルタリング(6)

- フィルタリング側での対策
  - 複数の技法の組合せ
    - 多いものでは10種類の技法を利用
  - フィルタリング技法の秘匿化
    - 迷惑メール送信者に回避策のヒントを与えない
  - ハニーポットの活用
    - おとりのアドレスに迷惑メールを誘導
    - ゾンビPCのハニーポットを仕掛けることも

# 送信ドメイン認証(1)

- 発信者ドメインの詐称を識別する手段
  - ローカルパートの詐称は対象外
    - 必要なら送信者認証を活用
  - メッセージの中身も対象外
    - 迷惑メールを受け取ることもあり得る
- 問題発生時の追跡が目的
  - Spamメールを受け取ったときの苦情先
  - フィッシング詐欺の抑止

# 送信ドメイン認証(2)

## ■ 2種類の方法

### ■ IPアドレスに基づく認証

- SPF 1.0 (classic) ... RFC4408
- Sender ID = SPF 2.0 + Caller ID ... RFC4406
  - SPF (Sender Policy Framework) ... POBOX
  - Caller ID ... Microsoft

### ■ デジタル署名を利用した認証

- DKIM = DomainKeys + IIM ... RFC4871, 5672
  - DomainKeys (RFC4870) ... Yahoo!
  - IIM (Identified Internet Mail) ... Cisco Systems

# 送信ドメイン認証(3)

- Sender ID(1)
  - 3種類の要素により構成
    - ヘッダ内の送信者の認証(PRA)
    - エンベロープFromの認証(MFROM)  
⇒送信側ドメインの特定
  
    - 送信側ドメインのポリシー定義(SPFレコード)  
⇒送信に使用するIPアドレスの宣言
  - 宣言したIPアドレスからのメール送信は正当

# 送信ドメイン認証(3)

- Sender ID(2)
  - PRA (Purported Responsible Address)
    - RFC4407で規定
    - 責任があるとされるアドレス
      - Resent-Sender:, Resent-From:, Sender:, From:の順
      - 転送する場合には, Resent-From:などを追加
    - MAILコマンドのSUBMITTERオプションも利用可能
      - RFC4405でSMTPサービス拡張として導入
      - 本文を受け取る前に判定するため
  - 例: MAIL FROM: <alice@example.com> SUBMITTER=<alice@example.jp>

# 送信ドメイン認証(4)

- Sender ID(3)
  - SPFレコード
    - DNSのTXT (SPF)レコードで送信サーバを宣言
      - + pass (受信許可)
      - ? neutral (宣言なしと同様)
      - ~ softfail (neutralとfailの間)
      - - fail (受信拒否)
    - 例: AレコードかMXレコードに対応するIPアドレスを持つMTAからのみ送信可能な場合
      - example.jp IN TXT "v=spf1 +a +mx -all"
      - example.jp IN SPF "spf2.0/mfrom,pra +a +mx -all"



# 送信ドメイン認証(5)

- DKIM (DomainKeys Identified Mail)
  - 公開鍵暗号方式を利用
    - 送信側
      - 秘密鍵を使って署名
    - 受信側
      - DNSを用いて公開鍵を取得
      - 公開鍵を使って署名を検証
  - 正しい署名が付いたメールは正当

# 送信ドメイン認証(6)

## ■ DKIM (続き)

### ■ 署名つきヘッダの例

```
DKIM-Signature: v=1; a=rsa-sha256; s=brisbane; d=example.com;
                ↑アルゴリズム  ↑セクタ  ↑ドメイン
c=simple/simple; q=dns/txt; i=joe@football.example.com;
                ↑正規化方法      ↑公開鍵入手法  ↑ユーザ名
h=Received : From : To : Subject : Date : Message-ID;
                ↑ 署名対象に含めるヘッダフィールド ↓本文のハッシュ値
bh=2jUSOH9NhtVGCQWnr9BrIAPreKQjO6Sn7XIkfJVOzv8=;
                ↓署名
b=AuUoFEfDxTDkH1LXSZEpZj79LICEps6eda7W3deTVFOk4yAUoqOB
  4nujc7YopdG5dWLSdNg6xNAZpOPr+kHxt1IrE+NahM6L/LbvaHut
  KVdkLLkpVaVVQPzeRDI009SO2I15Lu7rDNH6mZckBdrIx0orEtZV
  4bmp/YzhwvcubU4=;
```

# 送信ドメイン認証(7)

- DKIM (続き)
  - DNSの設定例(続き)

```
brisbane._domainkey.example.com.  IN TXT  (  
    "v=DKIM1; p=MIGfMA0GCSqGSIb3DQEBAQUAA4GNADCBiQ"  
    "KBgQDwIRP/UC3SBsEmGqZ9ZJW3/DkMoGeLnQg1fWn7/zYt"  
    "IxN2SnFCjxOCKG9v3b4jYfcTNh5ijSsq631uBItLa7od+v"  
    "/RtdC2UzJ1lWT947qR+Rcac2gbto/NMqJ0fzfVjH4OuKhi"  
    "tdY9tf6mcwGjaNBcWToIMmPSPDdQPNUYckcQ2QIDAQAB"  
    )
```

# 送信ドメイン認証(8)

- 2つの認証方式の選択
    - IPアドレスに基づく認証
      - 容易に導入可能
        - jpドメインでの普及率: 40%(ドメイン), 80%(メッセージ)
      - ヘッダや本文の書換えに強い
      - 転送に弱い
        - PRA, MFROMが維持できるかどうか問題
    - デジタル署名を利用した認証
      - 導入に手間が必要
        - jpドメインでの普及率: 0.5%(ドメイン)
      - 転送に強い
      - ヘッダや本文の書換えに弱い
- ⇒相補的に利用することが重要

# 送信ドメイン認証(9)

- 普及後の問題点
  - 迷惑メール送信者は送信ドメイン認証に対応
    - 単に認証するだけでは問題
  - 認証後の判定が重要に
    - 認定(accreditation)サービス
      - 信頼のある機関に公的に認定してもらう
    - 評価(reputation)サービス
      - Spamメールを大量に発信すると評価が下がる
    - 新規(使い捨て)ドメインの評価が問題

# メール転送問題・NDR問題(1)

## ■ メール転送問題

### ■ 迷惑メール送信元との誤判定

- 転送元MTAからの全メールが拒否

⇒ メール取込み機能(MailFetcher等)の活用

### ■ 転送先アドレス設定の間違い

- 宛先不明メールの大量送信⇒配送拒否

### ■ 送信失敗によるバウンスメール(NDR)送信

- 送信元に返送すると転送先はエラーに気付かない
- 転送元に返送すると送信元はエラーに気付かない

# メール転送問題・NDR問題(2)

- メール転送問題(続き)

- SPF利用時の問題

- そのままでは送信ドメイン認証に失敗

⇒ SRS(Sender Rewriting Scheme)

- 送信元アドレスを転送元ドメインに書換え

alice@example.com ⇒

SRS0+kw09=Cs=example.com=alice@example.jp

ハッシュ値 ↑

↑タイムスタンプ

# メール転送問題・NDR問題(3)

## ■ NDR問題

※NDR: Non-Delivery Report

- NDRが迷惑メールの一種に(backscatter)
    - 特定のアドレスに対するDDoS攻撃にも利用
  - 対処法(NDRを出さない)
    - SMTPコネクション時に宛先チェック
- ⇒ ハーベスティングの餌食に
- SPFでsoftfailの場合にはNDRを返さない

[http://salt.iajapan.org/wpmu/anti\\_spam/admin/operation/suggestion/spf-sugg\\_a01/](http://salt.iajapan.org/wpmu/anti_spam/admin/operation/suggestion/spf-sugg_a01/)



# メール転送問題・NDR問題(4)

## ■ NDR問題(続き)

### ■ 対処法(NDRを受け取らない)

- 送信時にReturn-Pathへ署名を埋め込む(BATV)

<http://mipassoc.org/batv/>

- MXのTTLを長くし, DDoS攻撃時にはMXを切替え

[http://www.ipsj.or.jp/01kyotsu/award/fit\\_ronbun/2004\\_pdf/LL\\_002.pdf](http://www.ipsj.or.jp/01kyotsu/award/fit_ronbun/2004_pdf/LL_002.pdf)



---

# 送信対策

# 代表的な送信対策

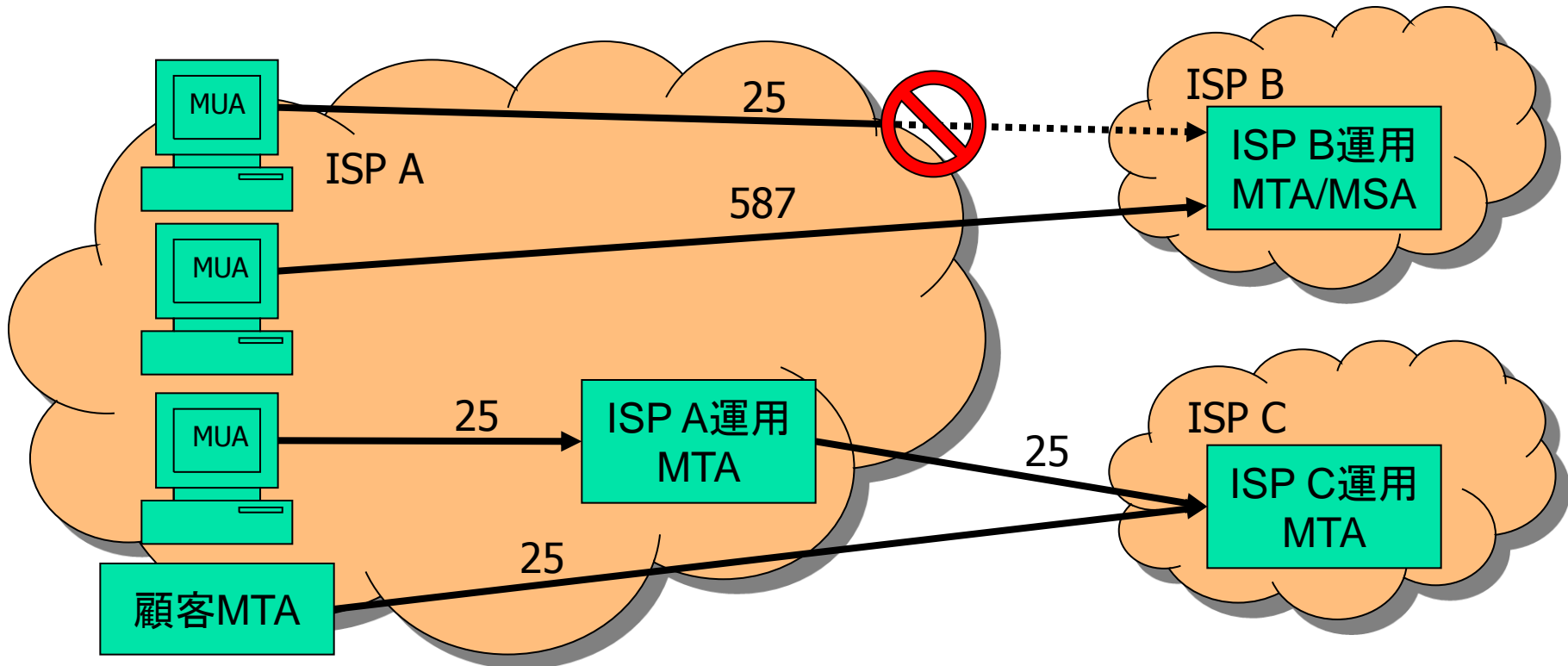
- ISPでのブロッキング
  - 迷惑メールに限らず送信を原則的に禁止
- ISPでのスロットリング
  - 迷惑メールに限らず大量送信を抑制
- 送信者認証

# ISPでのブロッキング(1)

- Outbound Port 25 Blocking (OP25B)
  - 自網からの迷惑メール送信防止が目的
    - 迷惑メール配送業者やbotが対象
    - 普通の電子メール発信は対象外
  - 方法
    - 自網→外部MTAへのSMTP(25番)をブロック
    - 他社MTAの利用者には発信ポートの利用を推奨
      - Submission(587番), SMTP/SSL(465番)
    - 一般利用者は自社ISP運用のMTAを利用
    - 自網内の顧客MTAは固定IPアドレスで対応
      - 当該IPアドレスのみブロックを解除

# ISPでのブロッキング(2)

## ■ Outbound Port 25 Blocking (続き)



# ISPでのブロッキング(3)

- Outbound Port 25 Blocking (続き)
  - 既に多くのISPが導入
  - 十分な効果
    - 国内宛迷惑メールの送信拠点が国外に移行
  - 問題点
    - 発信ポートを提供していない組織もまだ多い
      - 特に大学, 中小企業が問題かも

# ISPでのスロットリング

- 外部MTAに対するメール発信を制限
  - 同時送信数・送信頻度・帯域などを制限
    - 基本的には受信対策の場合と同じ
  - OP25Bとの併用
    - 自網内からのメールの大量送信を直接的にも間接的にも防止

# 送信者認証(1)

- 目的
  - 第三者による不正発信の拒否
  - 問題発生時の発信者特定
- 送信者アドレスの正当性は対象外
  - 他のISPから発信する場合などを考慮
  - 利用者レベルでデジタル署名を利用可能
    - PGP (Pretty Good Privacy), S/MIMEなど
  - 送信者アドレスの正当性保証も可能
    - 強制的にSender:ヘッダを挿入/置換するなど



# 送信者認証(2)

- POP before SMTP
    - 前提条件
      - POPサーバと発信用MTAが同じ
    - 方法
      - 受信時に先立ってPOPで認証
      - 認証に成功したIPアドレスを一定時間(例えば10分)登録
      - 登録IPアドレスからは任意の宛先への配送を許可
    - 利点・欠点
      - MUAを選ばない
      - IPアドレスが同じMUA/MTAから他の利用者も発信可能
        - 特にNATを利用するISPから発信する場合に問題
- ⇒ 現在では使用しないほうがよい

# 送信者認証(3)

## ■ SMTP-AUTH

- SMTPの拡張(RFC2554⇒RFC4954)
    - 新しいコマンドAUTHの追加
    - メール送信時に利用者を認証
    - いくつかの認証方法がサポート(SASL:RFC4422)
      - CRAM-MD5, DIGEST-MD5, PLAIN, LOGIN, etc.
  - 対応したMUAが必要
    - 最近は殆どのMUAがどれかの認証方式に対応
- ⇒ 多くの組織・ISPで採用



---

# 法的対策

# 法的対策(1)

- 技術的な迷惑メール対策の限界
  - ブロッキング・フィルタリングでは迷惑メール発信者は不利益を被らない
  - ⇒何らかの法的な対策が必要
- 法的な迷惑メール対策の実施国
  - 日本
  - アメリカ合衆国
  - EU
  - オーストラリア
  - 韓国など

# 法的対策(2)

- 日本における法律
  - 最初の迷惑メール対策法(2002/7施行)
    - 特定商取引に関する法律の一部を改正する法律  
(特定商取引法)
    - 特定電子メールの送信の適正化に関する法律  
(特定電子メール法)
  
- ※ 広告メールを全面的に禁止するものではない  
(オプトアウト方式)
  - 広告は企業活動にとって必要
  - CM, ダイレクトメールとの比較

# 法的対策(3)

## ■ 迷惑メール対策法の比較

法律名	特定商取引法	特定電子メール法
担当官庁	経済産業省	総務省
規制対象	事業者	メール発信者
表示義務	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メールアドレス</li> <li>2. 未承諾広告※</li> <li>3. オプトアウト方法</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未承諾広告※</li> <li>2. 氏名・住所</li> <li>3. 発信アドレス</li> <li>4. 受信アドレス</li> </ol>
禁止事項	拒否者への送信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拒否者への送信</li> <li>・ 架空アドレスへの送信</li> </ul>
罰則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年以下の懲役</li> <li>・ 300万円(法人は3億円)以下の罰金</li> </ul>	50万円以下の罰金

# 法的対策(4)

- 迷惑メール対策法の効果
  - 殆どの広告メールは表示義務に違反
    - 違反者の調査が困難
      - 発信者情報の欠落
      - 多くの場合, ゾンビPCから発信 ⇒ 追跡が困難
    - 違反しても直ちには処罰されない
      - 措置命令に違反した場合に初めて罰金・懲役
  - 2003/10/9に初めて2社が行政処分
    - 件名に「未承諾広告※」「※未詳諾広告※」などと表示
    - 2002/8頃から2003/9頃まで発信
    - 2003/6以降は送信者情報表示義務にも違反

# 法的対策(5)

- 迷惑メール対策法の効果(続き)
  - 総務省・経済産業省の合計で10件程度
    - 迷惑メール発信で初の逮捕者(2005/5/16)
      - 容疑は「有線電気通信法」違反
      - メールサーバに過負荷を与えたため
    - 迷惑メール発信で初の業務停止命令(2005/6/14)
      - 同一人物が運営する2社
      - 特定商取引法違反(表示義務違反)



# 法的対策(6)

- 迷惑メール対策法の改定(2005/11)
  - 送信者情報詐称禁止
  - 直罰規定(詐称の場合)
  - 刑罰の引上げ(特定電子メール法)
    - 50万円以下の罰金  
⇒1年以下の懲役または100万円以下の罰金
  - 対象の拡大
    - 私用アドレスに加えて事業用アドレスも対象

# 法的対策(7)

- 改正迷惑メール対策法の効果
  - 行政処分は計4件
  - 警察による摘発が増加
    - 2006/5/25 初の逮捕者(千葉県警)
      - 懲役8か月・執行猶予3年・罰金80万円
    - 2006/8/3 3名が書類送検(大阪府警)
      - 罰金100万円×1, 罰金50万円×1
    - 2007/1/16 4名逮捕(千葉県警)・・・タクミ通信
      - 8か月・4年×2, 6か月・5年×1, 6か月・3年×1
    - 2008/2/15 1名逮捕(警視庁)
      - 懲役6か月・執行猶予3年

# 法的対策(8)

- 迷惑メール対策法の再改正(2008/12)
  - オプトイン方式の導入
    - 受信者の同意のない広告・宣伝メールの送信禁止
    - 直罰規定あり(特定商取引法)
  - 刑罰の強化(法人に対する罰金)
    - 100万円以下から3000万円以下に引き上げ
  - 外国執行当局との連携強化
    - 送信者の情報提供が可能に
    - 外国からの迷惑メール送信への対応
    - 海外の業者への送信委託も規制対象

# 法的対策(9)

- 再改定迷惑メール対策法の効果
  - 計30件の行政処分
    - いずれもオプトイン規制違反
    - 2009/9以降は消費者庁との共管
    - 発表直後は日本語の迷惑メールが一時的に減少
  - 逮捕は1件
    - 2011/1/17 出会い系サイト運営会社7名逮捕
    - 1度に500万通送信, 1年半で売上げ5億
  - 「名簿屋」の摘発も
    - 2011/7/25 名簿屋2名書類送検
    - 容疑は特定商取引法違反(未承諾者への広告メール禁止)の幫助

# 法的対策(10)

- 罰則は適切か
    - タクミ通信事件(2007/1/16 4名逮捕)の場合
      - 出会い系サイトを運用
      - 2ヶ月間で54億通
      - 1か月の売上高1億2000万円
      - 判決
        - 懲役8月執行猶予4年×2
        - 懲役6月執行猶予5年, 懲役6か月執行猶予3年
- ※ 罰金はなし!!

# おわりに(1)

- 次々に出現する新たな手口
  - フィルタリング対策
    - 画像
      - サイズ/色/位置/傾きなどの変更
    - PDF/Word/Excel等のファイル添付
      - 単純なパターンマッチングの回避
      - 暗号化されているものも存在
  - 無料電子メールアカウントの悪用
    - CAPTCHA破りが横行
      - 機械解読
      - エログリッドコンピューティング
  - 社会的なイベントの悪用
    - 大地震・原発事故への便乗
  - 標的型攻撃メール(spear phishing)
    - 国内基幹産業・国会議員などが被害



## おわりに(2)

- 根絶は可能か
  - 新たな手口への対処には膨大な資源が必要
    - 画像のOCR解析
    - ファイルのオープン・文字列抽出・解析
  - ⇒ 根絶は非現実的
  - 迷惑メールの送信にも資源が必要
    - 新たな手口は非効率
  - ⇒ 従来の手口の無効化も重要